

オリーブの会通信

2011年12月2日

発行：特定非営利活動法人KHJ香川県オリーブの会
〒760-0078 高松市今里町一丁目499-2
連絡先 TEL/FAX 087-843-9877(川井)
http://khj_olive.com/



第114回月例会ご案内

日 時	2011年12月18日(日) 13:30~16:30(受付:13:00~)
場 所	香川県社会福祉総合センター 6階 研修室 高松市番町1-10-35 Tel 087-835-3334
内 容	13:30~ 開会 13:30~13:40 : 報告・連絡(川井) 13:40~15:10 : 講演 テーマ : <u>長期ひきこもり支援の間違いや落とし穴</u> 失敗から学ぶ成功の秘訣 講師: NPO法人KHJ 埼玉けやきの会 家族教室 朝霞ルーム主宰・訪問サポート士 フリーライター 石川 清氏 休憩(15分) 15:25~16:30 : ・「グループ別討議」 講演内容を中心とするが自由討議とします。
参加費	・会員 1家族 1,000円 ・非会員 1家族 1,500円

なんとなく気忙しい師走となり寒くなりましたが、お変わりなくお過ごしのことと存じます。

10月の例会時に実施いたしました「ひきこもりと生活機能についての研究」(ひきこもり本人の生活機能の理解と支援に役立てるためのものです。) 2011 KHJ 全国調査にご協力いただき有難うございました。また、親子の高年齢化に関しても「引きこもり」の実態に関する調査(2010年7月～9月調査)報告書 によると、母親の平均年齢は60.18歳、父親の平均年齢は64.41歳でした。当事者に関しては平均年齢が31.61歳でした。このことは、ひきこもり本人の親の大半が年金生活になっていて、本人も高年齢化し、年金で子どもの生活の面倒をみている現状があると考えられます。

そこで、12月例会ではご案内の通り、講師 石川 清氏による長期ひきこもり支援について、実体験から得たお話をさせていただきます。

17日(土)「親の学習会」については下記の通り開催いたします。KHJ本部の池田代表も長年関わられている学習会講師を「KHJ 埼玉けやきの会」で務められ、多角的視点からアドバイスする家族教室を主宰、また訪問支援及び当事者向けのユニークなプログラムとして沖縄、東南アジアなどを一緒に旅行して回復を促すきっかけ作りも実践しています。貴重な機会ですので是非多くの方々の出席を期待しています。

【親の学習会のご案内】(月例会の前日開催となっています。)

日 時	2011年12月17日(土) 13:30～16:30(受付:13:00～)
場 所	香川県社会福祉総合センター 6階 第2研修室
内 容	「自分のことは話さない」 フリーライター 石川 清氏 NPO 法人 KHJ 埼玉けやきの会 学習会講師・家族教室主宰 訪問支援・医療機関、支援団体等に見放されたり、相手にされない 若者や家族の支援
参加費	1000円(会員) 2000円(非会員)
担当G	Bグループ
要 申 込	参加申込は090-4332-3288(川井)まで お願いします。

【11月例会(11/27)の報告】(概略) 参加者:35名

テーマ:「トラブルには意味がある」資料あり

講師:臨床心理士 浅田みちる

引きこもりに関わりはじめて約9年、これまでスクールカウンセラーを経験してきたが、今回のテーマ「トラブルには意味がある」を与えられ考えさせられたことは、トラブルとは困ったこと、これは生きていく中で誰にも必ず起こること、私は娘が高校時代に不登校になった経験を持っています。

最近、斎藤 環氏と山本耕平氏(エルシティオ)の講演を聞く機会があったが、ご両



人とも 引きこもりは社会の問題である 引きこもりのゴールを必ずしも就労とは考えてはいないと語られたことを印象深く聞いた。

トラブルには原因があり、原因が分からないこともあるし、分かってもしようもないこともある。

トラブルの発生、例えば子どもが大声をあげる、親はこのことによって子どもが大変な状態であることに気付く、そのことに意味がある。

トラブルがきっかけで、引きこもりから脱出した例も聞いたことがある。

完全に引きこもりのケースでコミュニケーションがとれない場合、親は子どもに対して心を開き続け、コミュニケーションがとれるように努力する。

トラブルの発生前に気付くことができれば理想的ではあるが容易なことではなく、発生してからのスタートでいい、そこから相手の気持ちを思いやり、親自身の気持ちにも気付き、一歩ずつ前に歩いて行けばいいと考える。

引きこもるといふこと事態がトラブルであるとも言える。長く引きこもることで二次的な問題が発生する場合もある。

トラブルが発生したら、自分たちだけで抱え込まないで誰かに相談すること、当事者の多くは自分だけで抱え込んでいる場合が多い、一番身近な親が根気強く子どもの気持ちを分かろうとしている態度を子どもに見せてもらいたい。

親子のコミュニケーションに関して

親だから余計に子どものことが見えない部分もある。子どもが親に心を見せない場合も少なくない。

母親は子どもを育てる中で自分の考えを伝える。子どもの気持ちを聴くことには不十分である感があり、一方、父親は仕事に忙しく子育てを母親任せにしてきたきらいがある。

言葉になる前のフィーリングを察する心、これは人と人が分かりあうためのコミュニケーションの第一歩、親に余裕がないことを雰囲気では表していると子どもはそれを察知して言いたいことを言わない。聴こうという気持ちがあるかないかを子どもは敏感に感じ取っている。

子どもが「死にたい」というのは、「できることなら死なずに助かりたい。助けて」というサインであり、このように「察する心をつかう」ということはとてもエネルギーのいる作業である。

「本音で話す」ということはとても大切であり、子どもは一時的には腹を立てたりもするが、そうしなければ良い方向に向かっていかない。すぐには効果がなくても子どもの心には残るし親には気長く待つ姿勢が求められる。

自分の考えていることを言葉にするのは簡単なようで難しい、子どもに「自分の考えていることを言ってみなさい」と問う前に、大人の方から何を感じ思ったかをきめ細やかに伝えてみてほしい。相手から何か帰ってくるような言葉かけが大事。

・しっかり向き合う　・信頼関係を築く　・両親の協力　・コミュニケーションは相手を思いやることから始まり、ことばだけがコミュニケーションではないことを知ることが大切。

講演を聴講後 2 グループに分かれ話し合いを行いました。

テーマ：どんなトラブルが発生しどのように対応したか（相互助言を含む）

親に対して「・・・すぞ」とか極端なことばを1日に何回も言うことがある。

健康診断には行くが結果が出て治療の必要が発生しても治療のためには病院に行かない。

「死にたい」と親に話し、自分の体に怪我を与えたことがある。

心療内科の投薬量を少し増やすことを話したことが逆効果となり折角改善できていた状況が悪化した。

人付き合いで途中で辞退することができないため疲れ過ぎて翌日に影響を残す悪循環が発生する。

父親と子どもが約20年間にわたり会話がないう状況にあり、言葉かけはしているが、なかなか関係改善の糸口が見つからない。

波風たたないことが問題。

パソコンの使用時間が長く親としては気掛かり。

パソコンについては活発な議論が交わされたが、当事者の状況、使用目的などが複雑に関係してくる問題であり簡単にプラス面、マイナス面を結論づけることができない課題であろうと思われるが、当事者の影響・効果について個々のケースで十分に関心をもって見ていく必要を思わされた。

テーマ：子どもたちの現状や対応等について

（凡例： 印 浅田先生　印 親達）

子どもの対応の覚悟を決めた時から気持ちが楽になれたように思う。

子どもの食事など気遣いしながら用意しているが、いつもピリピリさせられている。

子どもにしてあげるばかりでは良くない、心の中の子どもの思いを90%から70%に減らすようにされたい。

子どもは親が困っている時は、家の手伝いをしてくれており、チャンスが来れば何事も出来るのだと思う。

家では子どもに頼むことを増やしていく気持ちを持ち、手伝ってくれた時は本当に助かった旨を伝えることが大事。

子どもには外へ出かける時必ず声かけし、返事を求めないことでストレスを与えないようだ。

子どもにとって体験していないことをやらされるのは大変なようだが、力仕事など頼むと手伝ってくれている。ただ父親との話が来ていない。

親がため息などすると、子どもはプレッシャーを感じているようだ。

【家族教室のおしらせ】

日 時 12月16日(金) 14:00~16:00

場 所 小豆総合事務所 東館 2階会議室

対象者 不登校・ひきこもり状態にある子どもを持つ親または関係者
当会からも2名参加予定です。小豆島の会員の方も是非ご参加ください。

【パソコン教室 12/4(日)】

前回途中になっている年賀状については引き続きいたします。そのあと、みんなでおしゃべりしたいと思います。神戸から初めての若者が参加予定ですので、若者のご参加お待ちしております。



【お遍路さんのお土産作りの状況】

たんぼの風企画さんのお土産作りのお手伝い

絵手紙については会員の皆さん及び若者の協力を、引き続きお願いできればと思います。

また、12月3日(土)新製品の開発の説明と今後のお土産販売等について、お話を伺う予定です。(13時30分~ 居場所にて)

オリーブの会若者の絵手紙展示期間中は、会場にお立ち寄り下さり有難うございました。多くの方々の温かいご支援に感謝致しますと共に今後ともよろしくお願い申し上げます。

【おしらせ】

ASきづ(ず)き会のご案内

この会はアスペルガーのパートナーを持つことで、共通の悩みを抱えた人のためのセルフヘルプグループ(自助グループ)です。悩みを語り合うことを通して不安や不満の解消を図ることを目的とします。

日 時 毎月第2水曜日

場 所 ひまわりセンター(丸亀市)

参加費 無 料

内 容 語り合い、ASについての情報交換

対 象 パートナーがASだと感じている方(医療機関等での診断は問いません)

【連絡先】 松村:090-4334-6058

さぬき若者サポートステーション『保護者セミナー開催』

就職や進路で困っている保護者の方と臨床心理士が話し合っの悩みを解消する『保護者セミナー』を行っています。

日 時 平成24年1月・3月 開催予定(詳細は連絡先へお問い合わせください)

場 所 三豊市豊中町保健センター

対 象 子どもの就職や進路で困っている保護者(無料)

【連絡先】 さぬきサポステ：0877 - 58 - 1080 浅田：090 - 7787 - 8002

【12月 居場所活動予定】

内 容	日	曜日	時 間	担 当
第8回運営委員会	3	土	13:30~	川井
個人カウンセリング(松田 勝先生)	10	土	9:00~	加藤
ポパイの会 パソコン教室	4	日	13:30~	森下

次回【ひきこもり講演会&座談会】

この事業は、四国労働金庫社会貢献活動「助成金」を受けています。

日 時	2012年1月22日(日) 13:00~受付 13:30~16:30		
場 所	かがわ総合リハビリテーションセンター 2F(研修室) 高松市田村町 1114 番地 電話 087-867-7686 いつもと場所が異なります。		
内 容	<p>一部 講演 テーマ「親の焦り」 - 長期間ひきこもる子と向き合うには - NPO 法人エルシティオ 理事長 金城 清弘(きんじょう きよひろ)氏 和歌山市立小学校長退職後、和歌山大学講師、県教育相談センター 相談員を経て現在に至る。 和歌山県において、ひきこもりの若者の社会参加を支援する共同作業所を 運営、ひきこもり家族や若者を中心に様々な支援を行っています。</p> <p>二部 講師を囲んでの座談会(施設スタッフ1名参加予定)</p>		
参加費	一家族 500円(会員)	一家族 1000円(非会員)	
担当G	Bグループ		

【関連機関等の行事案内】

1. テーマ「引きこもる若者の就労を考える」きょうされん香川支部主催
引きこもりのための作業所を設立するために

講師 NPO 法人エルシティオ 理事長 金城 清弘氏

当事者のための作業所は長年の願いであり、開所への第一歩となるように当会としても
全的に協力ができるよう願っています。是非多くのご方々の出席を期待しています。

日 時：平成24年1月22日(日) 10時~12時

場 所：かがわ総合リハビリテーションセンター

〒761-8057 高松市田村町 1114 番地 電話 087-867-7686 (参考)きょうされん:

障害のある人たちを対象とした作業所(全国で約6000カ所)の全国大の組織